



駒澤会だより

第20号

2013年12月23日
駒澤大学駒澤会発行



駒澤大学移転100年に寄せて

駒澤大学学長・駒澤会名誉副会長 廣瀬 良弘

東京都は2020年の五輪招致に成功いたしました。駒澤大学が五輪と深い関係にあることは申すまでもありません。約半世紀前の東京五輪の際に本学の隣にオリンピック公園ができ、その中に総合運動場体育館や競技場が造られ、東洋の魔女とソ連チームとの激闘が繰り広げられました。そして、そのバレーボールの選手たちが本学の体育館で練習したとのこと。本学の体育館のバレーボールのコートは国際試合に耐えうるものです。

ところで、本学が麻布北日が窪の地（六本木ヒルズ・テレビ朝日あたり）から移転してきて、今年、100年目にあたります。養鶏場の跡地で、隣には広大な東京ゴルフ倶楽部（のちの駒沢ゴルフ倶楽部）のゴルフ場があるだけでした。日本人が造成した最初のゴルフ場でした。その後、東映フライヤーズの野球場などを経て、東京五輪の際にオリンピック公園となったのでした。

本学の歴史はこの東京五輪との関係だけでなく、江戸東京の歴史とも、陰に陽にかかわっております。まず、本学の前身の前身であります、吉祥寺を江戸城の傍らに造立したのが、江戸城を築城し、江戸・東京の開闢の祖とされる太田道灌であります。長禄年間（1457～1460）のことで、550年前のことでした。その後、小田原北条氏が滅亡すると、徳川家康が江戸城に入ってきます。家康は拡張工事を始めます。吉祥寺は神田川の外に出ます。神田駿河台というところで、一度は家康も江戸城の候補地にするほどの地形でした。江戸の町の地下を木管によって通ってきた神田上水が地上に出て神田川の上にかかった懸樋を通り、再び地下に潜り、江戸城に向かうという、水道橋の袂でもあります。橋があったのです。『江戸図屏風』（桜の歴史博蔵）には、人の通る橋と水の通る橋の二本の橋が描かれています。その水道橋の袂に吉祥寺が描かれております。その吉祥寺の中に本学の前身であります学寮（のちの旃檀林）が成立します。文禄元年（1592年）、家康の江戸入城、3年目で、421年まえのことです。

吉祥寺と境内にあった旃檀林は明暦の大火（1657年）で、駒込に移ります。門前の人々は五日市街道沿いの荒野を開墾して、村名をもと居た所にちなみ、「吉祥寺」としたという説もあります。ところで、振り袖火事によって江戸城の天守閣は焼失しますが、再建はされませんでした。暴れん坊将軍で天守閣が映りましたら、事実ではありません。

そして、本学は明治15年（1882）に近代的な大学として、麻布北日が窪の地（六本木ヒルズ・テレビ朝日あたり）にスタートを切ったのであります。131年前のことです。

このように、本学の歴史は江戸東京、東京五輪と深くかかわっております。この古き良き伝統を基礎にして、このグローバル化の時代に、それに十分に適応し、それに左右されない、コミュニケーション能力と日本文化・禅文化の知識を持った人間力あふれ、地域貢献を果たせるグローバルな人材を育成してゆかなければなりません。駒澤会の皆様のご協力を仰ぎたいと存じます。よろしくお申し上げます。

奨学金授与式について

総 額：500万円（一人20万円×25人）
目 的：学業奨励
対象学生：学部2年生以上

昭和57年に「駒澤大学駒澤会奨学金給付規程」が制定され駒澤会奨学金が誕生し、現在は20万円×25人。年間500万円を給付しております。平成25年7月17日に駒澤会奨学金授与式が廣瀬学長、森屋会長、田中副会長、三崎副会長が出席のもと、行われました。

学長より、駒澤会へ奨学金支援のお礼が述べられ、学生達へ激励の言葉が述べられました。「この奨学金は皆さんの将来において、大きな感謝として残ります。今日のことを忘れずに勉学に精進して未来の為に頑張ってください」との言葉がありました。

森屋会長より駒澤会の紹介があり、学生達への祝辞が述べられ、奨学金決定通知書が手渡されました。

授与された学生達も「感謝の心で一杯です。努力して頑張ってきたと思います。」「必ず将来役に立つよう努力します。」との感想を述べてくれました。

奨学金を受給した代表3人の喜びの声、決意の声を掲載いたします。



受給生の言葉



GMS 学部GM学科
4年 大澤 麻未

この度は駒澤会奨学生に選んでいただき、本当にありがとうございました。年々人から評価されることが少なくなっていく中、このような形で私の大学生活を評価していただけたことを大変嬉しく思います。

私の大学生活といえば大学の授業とバスケットボールだ。友達と遊んだ思い出はあまりない。正直、今振り返ってみると本当にこれで良かったのか、もっといい時間の使い方があったのではないかと思うこともある。私は小学校5年生の時から今までバスケットボールを続けていて現在は母校の中学校で中学生達にバスケットボールを教えている。悩むことばかりだが試合に勝ったり、ほんのちょっとでも上手くなっている子がいたり、教えたことを意識して練習している姿を見ると今まで続けてきて良かったと思う。プレーヤーとしてはバスケットボールサークルに所属し、練習や大会に参加している。教えることは難しいけれど教えるようになって気づくこと、変わったことが多々あった。教えてきた子供達、共にプレーをしてきた仲間達、私にバスケットボールを教えてくれた先生方、コーチ。私のバスケットボール人生を振り返って周りを見渡すとそこには数えきれないほどの支えがあることに気づいた。そしてどんなことがあったとしても帰る場所があり、そこには必ず家族がいた。

今までに沢山の出会いがあり、私は支えられている。伝えきれないほどの感謝をまだまだ返しきれないけれど今できることを一生懸命やろうと思う。それがバスケットボールと学校に行くことなのだと思う。今回駒澤会奨学生に選んでいただいたことで改めて親の支えの大きさ、周りで支えてくれている人達の存在、大好きなバスケットボールに関われていることに幸せを感じることができた。そして少しでも恩返しのできたのではないかと思います。

これからも出会いとつながりを大切に、常に全力で進みたいと思います。本当にありがとうございました。

受給生の言葉



法学部法律学科
3年 粕谷 英孝

この度は駒澤会奨学生に採用して頂き、誠に有難う御座います。私の成績をこの様な形で評価して頂き、大変嬉しく思うと同時にとても光栄に思います。

私は駒澤大学に指定校推薦で入学しました。その為、一般受験で入学した他の学生についていけるか不安でした。そこで私は、大学生活においては出身校の看板を背負っている以上勉強に専念すべきと考え、サークル活動やアルバイトをせずに、ただひたすら4年間勉強することに決めました。

しかし、いざ入学してみれば法学の難解さに頭を悩まされました。かの有名なヘルムホルツが残した言葉にあるように「法学は成人の教養だ」というのも、「なるほど」とうなずけるほどのもので挫けそうにもなりましたが、毎日欠かさずに復習するのは勿論の事、次の授業の予習も励行し努力して参りました。

その甲斐もあって1年次・2年次共に、学長学業奨励賞を受賞することが出来ました。自分のこれ迄やってきたことに対する高い評価を受けたと感じることが出来、自信が持てるようになったと同時に、来年もまたしっかりと勉強を継続していこうと思いました。

ところで、私が今回駒澤会奨学金に志願したのは大学卒業後、警察官として職務に従事する為に資金が必要だったからです。というのも近年の長引く不況で、私の様に警察官の職務に憧れを持つ人だけでなく、公務員という職務の安定性から就職を希望する人が増え、その倍率が高くなり、公務員試験の為に専門学校に通う必要性が生じたからです。勿論、アルバイトをしていない私にはお金がなく、大学と予備校のダブルスクールの中、アルバイトをするのも難しく両親に負担が掛かることを申し訳なく思っていました。その為この度採用が決まった時には、安心しました。

これからの残された大学生活でも、奨学生に採用して頂いた感謝の気持ちを忘れず、この度の採用を活力として、より一層精進して参りたいと思います。

受給生の言葉



経営学部市場戦略学科
2年 熊谷 美沙

この度は、駒澤会奨学生に採用していただき、誠にありがとうございます。昨年度の私の取り組みをこのようなかたちで評価していただき、大変光栄に思うとともに感謝しております。

私は、大学生生活において何事にも真摯に取り組むことを心がけています。大学の学業を実りあるものにするためには、90分の講義だけではなく、自主的に予習復習をしたり、新聞を読んだりすることで、様々な理論や事例に対して自分自身の考えを持つことが必要だと思います。この考えに基づき、講義では積極的に教授に質問したり、興味があることは図書館で調べたりすることで、自分自身の考えを深めることができています。経営学は、主に企業の経営を学ぶ学問ですが、経営の神様と言われる松下幸之助の「人間は自分という名前の会社の経営者である」という言葉もあるように、経営学を学ぶことで、自分の人生観を磨くこともできると思うので、今後もより理解を深めていきたいと思えます。ゼミではマーケティングについて学び、ビジネスコンテストに参加することで、より実践的な経営を体感することができています。また、社会経験を少しでも積むためにアルバイトも行っていますが、学業に支障のない程度となっているので、今回採用という結果を受けて大変感謝しております。大学に進学させて下さった両親への感謝の気持ちも忘れず、今まで以上に様々なことに挑戦していきたいと思えます。

今回、駒澤会の奨学生として採用していただき、自分の取り組んできたことに自信を持つことができました。奨学生であるという自覚を持ち、大学生活に悔いを残さぬよう、これからも一層勉学に力をそそいで努力していきたいと思えます。



秋の研修会に参加して

駒澤会 齋藤 和子

9月28日～29日の秋晴れの中、箱根強羅ホテルにて行われた「駒澤会 秋の研修会」に、昨年に引き続き二回目の参加をさせて頂きました。

昨年の研修会では、ご講演された前総長田中良昭先生と僧侶であった私の亡き叔父が、旧知の間柄であったと判り大変驚き、このご縁の深さに甚く感動いたしました。その様な体験から、駒澤大学のご高名な先生方のご講演を間近で拝聴することの出来るこの会には、是非また参加させて頂きたいと思っておりました。

本年度は「建学の理念を考える」というテーマで、駒澤大学の精神である「信誠敬愛」「信悟一如」について、4月より駒澤大学の総長に就任された池田魯参先生が、大学の歴史を紐解きながら分かりやすく解説してくださいました。

参加された方々からは現代の世界情勢と照らし合わせた質問や、実社会での体験などの質問も飛び出しましたが、池田先生は丁寧にご回答くださいました。

自己肯定感の低い今の子供たちに、自分を信じるという駒澤大学の教育理念はまさに一番必要な物であると思います。今更ながら我が子は良い大学を卒業させて頂いたと感謝の気持ちが溢れました。

研修会の後は、懇親会が開かれ、美味しいお料理と参加者の近況報告などで盛り上がり、強羅の温泉も堪能して素敵な時間を過ごしました。また遠方より参加され、年1回お目に掛かれるお友達もでき、「また来年の研修会でお会いしましょう。」とご挨拶をしてのお別れとなりました。

今年も素晴らしい会に出席させて頂き、本当にありがとうございました。



教育後援会との懇親会報告

駒澤会
総務部部长 山田 直重

教育後援会
会長 高橋 俊夫

平成25年8月19日の午後7時から東京都港区新橋の「新橋亭新館」で教育後援会役員と駒澤会役員との懇親会が行われました。教育後援会からは高橋会長を始め副会長や各部の役員で合わせて9人の方が参加されました。また、大学からは教育振興部の鈴木部長と事務局の田村さんが参加されました。それに駒澤会の執行部および各部役員が合計14人参加で総勢25人の懇親会でした。

駒澤会のメンバーは殆んど教育後援会役員及び委員の出身ですから、駒澤会森屋会長の挨拶と教育後援会高橋会長の挨拶が終わり乾杯も済むと、それぞれ話しも弾みはじめ、各テーブルには沢山の笑顔が溢れる懇親会となりました。

縁あって駒澤大学や学生達の支援に携わっている者どうしの会話ですから、「教育後援会を卒業されたら駒澤会にご入会ください。」とのお誘いにも、教育後援会の皆様からは、すべて前向きなお話が飛び出す和やかな懇親会でした。

天候史上、新記録続出の異例とも言われる今年の天候不順しかし8月19日、駒澤大学支援団体の中核である駒澤会、教育後援会の懇親会は、その天候をはるかに凌ぐ熱気の中開催されました。駒澤会をサポートする教育振興部と教育後援会からは役員が出席させていただきました。毎年恒例となっておりますが、今回は庶民の街新橋での開催です。

現在もご多忙な駒澤会の役員の方が準備され、駒澤会会長のご挨拶で華やかな懇親会の幕が上がりました。乾杯の後は美味しい紹興酒をいただきながら、テーブル毎に盛り上がった会話がはずみ、また参加者全員がスピーチを披露し、近況・支援団体としての抱負を語り最後のおひとりのスピーチが終わるまで盛大な拍手で応えるといった楽しい雰囲気会場がつつまれておりました。

在校生の保護者として勉学環境改善にとりくむ教育後援会、長期的な展望に立って駒澤大学の発展に寄与している駒澤会、支援の方法はこととなりますが、目的は同じ。今後も支援団体の両輪となって活動することを誓い合い、あつという間の楽しいひと時を臉に残しながらのフィナーレとなりました。



会員紹介 監査 鈴木康元さん

今回は前広報部長、現在【監査】として活躍されている鈴木康元さんに登場して頂きました。

質問者：鈴木さんには長年広報部部長として活躍して頂きましたが、駒澤会のほか駒大高校の父母会でも会長をされたと聞きました。

鈴木：駒高の父母会は【旃檀会】と言いますが、2期（2年）勤めました。正式には1期目は代行でした。時の会長がフィリピンに長期出張で不在となったので、期の途中から副会長の私に代行のお鉢が回ってきたのです。

質問者：会長をやっていた時の思い出など聞かせてください。

鈴木：突然言われて運動会で初めて会長挨拶をしたのですが、緊張で1分ほど声が出なかったです。回りは相当ハラハラしたようで、苦い思い出です（笑）。

質問者：それ以後も緊張しましたか。

鈴木：緊張しなくなりました。最初で度胸がつかしました。（笑）一番の思い出は「臘八摂心（ろうはつせっしん）」という坐禅会（1週間）に出席したことです。駒高では2年生の12月に1週間の早朝坐禅（40分ほど）を経験させるのですが、父母会の会長も一緒に取り組んで欲しいと請われました。良い経験でしたが毎朝通うのですから大変で、私の参加が最初にして最後だった様です。会長は大変だとしみじみ思ったものです。

質問者：そのあと、駒高の一如会（父母のOB会）にも参加されていると聞きましたが。

鈴木：玉川さん（駒澤会では広報部）から「やりなさい」と強面に言われて【監査】をやっています。（笑）

質問者：お子さんは何人ですか。

鈴木：男3人です。長男と三男が駒高から駒大に進みました。駒高の父母会会長を引受けたのは三男の時です。次男は工学院大学で、ここでも”教育後援会（駒澤と同名）”の副会長をやりました。

質問者：出身はどちらですか。

鈴木：横浜の関内です。家は馬車道にあって終戦後（6歳の時）に伊豆の松崎の祖父の家に移転して、中学卒業までいました。

質問者：戦争中は空襲の危険のある都会にいて、戦後に伊豆に移転（疎開）したのですか。

鈴木：馬車道の家と土地を米軍に接收されたため、父が実家に戻ることを決心したのです。きっと色々な事情があったのでしょう。

質問者：中学卒業後はどちらに。

鈴木：東京に一人出てきて新宿郵便局に勤め、国学院の夜間の高校・大学に通いました。いわゆる苦学生です。上京してから結婚するまで、郵政省の独身寮にいました。



鈴木さんのお店とマンション



2013年11月16日(土)
読賣新聞に登場しました



質問者：鈴木さん、どんな趣味をお持ちですか。

鈴木：アマチュア無線（ハム）と旅行でしょうか。若い時は山が好きで、学生時代には「北アルプスの【三俣蓮華山荘】で一夏アルバイトをしたこともあります。薪割やカレー作り（250人分）などが仕事でしたが、ドラム缶でカレーを作るのは重労働でした。国内旅行はユースホテル専門に泊まり歩きました。今は脚を傷めたので歩くと腰痛が出ますから、山は諦めて年に3回ほど夫婦でツアーに参加する程度です。無線の方は大学の頃から今でも続けています。南極の昭和基地と繋がったこともありますよ。

質問者：ハムは、外国人との交信も楽しいらしいですね。

鈴木：日本人としかやりません。英語が喋れないから外国人は敬遠しています。（笑）

質問者：しかし、郵便局に勤めながら、よく北アルプスの山小屋で一夏のバイトが出来ましたね。

鈴木：有給休暇（20日）の一年分を全てそこに注ぎ込んだのです。

質問者：民間企業だと1年分の有給休暇を纏めて取るなんて、まず出来ませんよ。

鈴木：郵政省だから出来たのでしょうか。しかし、それ以外の時には休めないわけですから、きついことでした。35歳ごろ、団長をやっていた友人から”子供たちの指導者になってくれ”と誘われてボーイスカウトに入団し、子供達をよく野山に連れて行きました。これも趣味に含めて良いかと思います。

質問者：現在のお仕事は酒屋さんとマンション経営だそうですが、いつ郵便局から転職されたのですか。

鈴木：結婚2年後です。家内の父親が体を壊し、家業を手伝って欲しいと望まれたからです。その時は郵便局の上司からは辞めるなどと言われるし、商売への不安（向いてるかどうか）も感じたし大変でした。悩みに悩んで最終的に酒屋を継ぐことを決心したわけです。ただ、”一生懸命に働けば全ては必ず上手くゆくはず”という思い（信念）はありました。

質問者：苦勞されたのですね。

鈴木：ともかく滅茶苦茶働いてきたと思います。悪いことも一切しなかったと思っています。

質問者：悪いことって・・・鈴木さんの思っている”悪いこと”の定義は何ですか。

鈴木：飲んで喧嘩するとか、ギャンブルにのめり込んで家族に心配かけるとか。まあ一言で言えば”他（ひと）に迷惑をかけること”は悪いことです。

質問者：なるほど。明快ですね。

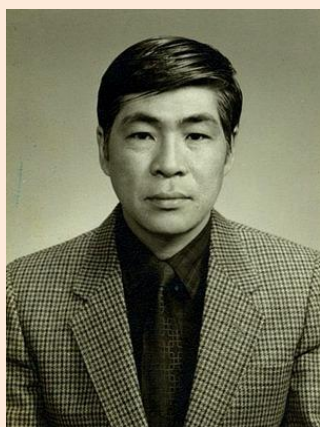
鈴木：パチンコは学生の時にやってみてアツという間に千円損をしたので、それで止めました。

質問者：昭和30年代前半の千円は学生にとって大金です。最初は大損して良かったわけですね。鈴木さんはクソがつく程の真面目さだけど、若い時は”面白くない人”と言われませんでしたか。

鈴木：いや、これでも若い頃は結構モテましたよ。（若い時の写真を出す）

質問者：あらら・・・かっこ良いですな、現在からは想像出来ません。（笑）この写真、会員紹介の紙面に使わせてもらいます。

それでは長時間有難うございました。



30代の鈴木さん



インタビューに答える鈴木さん



広報部の仲間とともに

編集後記

11月4日の朝刊、全日本大学駅伝「駒澤大学3連覇」。レースは2位に3分10秒差の圧勝。1月の箱根駅伝後、意識改革でチーム力向上。初の3冠への期待がかかる。等々うれしい記事。

昨日はテレビでレースを応援していたが、早速子どもに「おめでとう。」のメールを送る。いつもは遅い返信が、この時ばかりは「ありがとう。」と送られてきた。駒大のOBとして、いつも母校の活躍を熱く感じている。親元を離れて社会人となり、忙しい毎日を過ごしている子どもとつながるときである。

さて、9月28日・29日は、1泊2日の日程で恒例の駒澤会秋の研修会に参加した。宿泊先は箱根中強羅のホテル。箱根湯本駅から強羅駅まで、超満員の箱根登山電車に乗り、そこから中強羅駅まで日本一急勾配を走る箱根登山ケーブルカーでぐいぐいと登って行く。車中、箱根駅伝の実況中継を思い出した。「選手にとっては、心臓やぶりの上り坂、過酷な箱根路…。」箱根の山は天下の険とはこういうことかと、レースの厳しさに思いをはせる。難所と言われるこの箱根で、来年こそ大学駅伝日本一を目指して頑張ってもらいたいと念じた。

駒澤会は、奨学金授与による学生支援が主な事業であるが、各部の活動を充実させていくことは、学生の活躍にさらには大学の発展につながっていくのではないかと考える。維持会員の皆様には、入部を切にお願いいたします。

駒澤会のタスキもまたつないでいけるように。

(広報部 武田記)

基金管理委員会からのお知らせ

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	8月～11月までの利金	備考
三菱UFJモルガンスタンレー証券	666,741円	グロソブ(毎月決算型)
みずほ銀行	12,450円	定期・普通預金利息
世田谷信用金庫	8,475円	定期・普通預金利息
合計	687,666円	

基金管理委員長

事務局からのお知らせ

大学行事予定

12月26日～1月6日

冬期休業(全学休業)

2月4日～8日 2月一般入学試験

3月7日 3月一般入学試験

3月25日 卒業式(会長出席)

駒澤会行事予定

1月25日 役員会

2月9日 駒澤会新年賀詞交歓会

※案内を同封しております。多数のご参加をお待ちしております

3月15日 役員会

駒澤大学
駒澤会

駒澤会だより 第20号

発行日:平成25年12月23日

発行者:駒澤大学駒澤会 広報部

154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1

TEL:(03)3418-9189

駒澤会ホームページ<駒澤大学HPより>

<http://www.komazawa-u.ac.jp>

→ 在校生父母の方 ~ 駒澤会クリック